

草花幼稚園公開保育研究会記録

〈テーマ〉 『地域における子育て支援』 なかよし学級

『継続的な運動遊び』 やま組(年長児)

〈日時〉 令和5年12月7日(木)

〈司会〉 草花幼稚園 影山幸江

〈記録〉 草花幼稚園 井上尚子

〈出席者〉

敬称略

社会福祉法人慈光会	若葉保育園	園長	石井 ユミ子
同	草花保育園	主任保育士	清水 真理子
同	東福保育園	保育士	小野 里美
同	加美平保育園	保育士	松村 友希乃
同	若葉保育園	保育士	青柳 直美
同	久米川保育園	保育士	川崎 博美
同	あそか保育園	保育士	黒田 美砂子
同	草花保育園	保育士	中村 侑李

《なかよし学級(子育て支援)より》 杉本 和美

(概要)

月に1回から2回、第1木曜日、第3木曜日に開催している。コロナ禍より、主に園庭開放。参加が低年齢化しているために、ブルーシートやマットで乳児も遊べる環境を設定している。気温が低くなってきているので今後、室内での開催を検討している。

(本日の内容について)

- ・大型絵本や紙芝居を繰り返し楽しんできて、今回は自分だけの『絵本作り』を行った。参加した保護者が、『楽しかった、やってよかった』と思えるようにすることを重要視し、当日の保護者や子どもの活動はシンプルに“シールを貼る”というものにした。その分こちらの作業が大変だったが、親子で絵本をめくりながら、『どこににげた?』『こんどはどこ?』と掛け合いを楽しみながらシールを貼る姿が見られた。
- ・『きんぎょがにげた』の絵本との繋がり、ケロポンズの『きんぎょのふん』の遊戯を行った。最後に皆でつながって一体感も生まれとてもいい空間となった。
- ・参加人数が少なくなっている、新規が少ない、宣伝力不足を感じている。
- ・幼稚園は乳児を預かっていない為、乳児の楽しませ方を模索中。

《やま組(年長児)より》 水村 紗矢香

(本日のクラスの状況)

出席20名 欠席4名 配慮が必要な子が欠席のため、全体的に落ち着いていた。

(内容)

- ・長コーチに1学期から月に2回、鉄棒、マットの運動遊びや、専門的な運動遊びの指導を受けながら、運動会で披露する場を作った。その延長として今回は、巧技台を行った。
- ・飽きないように1回の活動でコースを3回変更し楽しめるように工夫した。3コース目は、分かれ道を作って自分で選べるようにした。そこが一番盛り上がった。
- ・運動が苦手な子にも楽しんでもらいたいと、巧技台を行うだけではなく、『友達と協力して楽しむ』ことをねらいとした、“シールアート”も取り入れた。

《参観された先生方より》

あそか保育園 黒田 美沙子

(5歳児)

- ・全体的にゆったりと子どもに関わっている穏やかな雰囲気を感じた。巧技台の説明が丁寧だった。難しいと感じている子には、「○○のやり方をしても良い」などと、いくつかの提案があったのが良かった。
- ・クリスマスの製作、ありがとうの木、給食の食育ボードなど、目で見ても子ども達が分かりやすい環境設定がとても良かった。

(3歳児)

- ・製作の前に、クリアシートを子ども達が机に敷いていた。難しいと、困っていた子たちに先生はすぐにやって解決するのではなく、「どうしたらいいかな?」と考える時間を作っていて良かった。

(なかよし学級)

- ・出席カードに、年間の予定が書かれていて、目で見ても分かりやすく、とても良かった。
- ・自分だけの絵本の登場人物に、自分の写真をラミネートしてあるものが用意されていて、とても良かった。

草花保育園 中村 侑李

(5歳児)

- ・全体的に先生たちの声掛けが落ち着いていた。戸外遊びからの集合や、入室時にも穏やかに話している子ども達も落ち着いていると感じた。
- ・ホールにすでに設定してあった巧技台を見ても、勝手にやりだす子もいなく、待つことができていた。
- ・子ども達の声の拾い、ルールや約束の確認ができた。
- ・年間を通して、海や魚をテーマに設定している。単発でなく、続けているのがよかった。
- ・巧技台を、一人ずつやることで発生する『待ち時間』もうまく対応、応援している姿が印象的だった。
- ・巧技台をやった後に、シールを貼り最終的にシールアートを協力して完成させるという工夫がよかった。
- ・大きなクリスマスツリー、クリスマスにちなんだ製作、クリスマスの絵本コーナー、サンタさんへの手紙を入れるポスト…など、環境設定が良かった。
- ・自分のクラスでも歌っている歌を、歌詞を理解し、絵に表現していた。やってみたい。

(なかよし学級)

- ・『きんぎょがにげた』にちなんで、手遊び、遊戯も金魚という繋がりが良かった。
- ・親子が楽しんでいるのが伝わってきた。
- ・リサイクルコーナーでは、洋服のサイズを手にとってみることができ、保護者や先生と話し、相談もできてとてもいい取り組みだと思った。

加美平保育園 松村 友希乃

(環境について)

- ・草花保育園に子ども預けているため、日頃からみる機会があったが、バスの点検、清掃がいつも丁寧に行われている。
- ・先生たちがいつも明るく挨拶しているのが印象的。
- ・砂場がきれいに整頓されていて、子ども達が使った後も整頓している。

(2歳児)

- ・『コンコンクシャンのうた』を、上手に歌っていた。大きな口を開け、大きな声で歌い子ども達の手本となっている先生の姿を見て、コロナ禍で制限されていた以前の姿だと、感慨深かった。

(5歳児)

- ・シールアートでシールを5枚使用、自分たちで数えながら5枚使うように指導していた。使用するシールを事前に5枚切って渡してしまいがちだが、友達に教えてもらったり、自分で数えたりし、使っている姿を見て、考える力を育む大切さに気が付いた。
- ・巧技台の中の、一本橋(平均台)では、補助の先生が手を添えるか迷っていると、担任が「〇〇くんは、大丈夫です」と、声を掛けていて、補助をする子、しない子を、担任が把握し、的確に補助に伝えていた。安全面に配慮しつつ、手を離してもいいところは見守るという連携が取れていた。
- ・絵がとても上手。一人ひとりの表現の自由を見守りながらも、差をあまり感じさせない。表現を受け止め、色彩豊かに、伸び伸び描くことができている日頃の指導の姿が見えてくる。

(なかよし学級)

- ・新規が増えないのは自園でも同じ悩みを持っている。今回の手作り絵本を見て、とても刺激を受けた。これからどのように楽しませてあげられるか、園に帰って検討したい。

若葉保育園 青柳 直美

(全体)

- ・遊んでいる時も、片付けをしている時も、園庭で先生の声よりも、子ども達の声が響いていて伸び伸びしているのが伝わってきた。
- ・室内遊びの塗り絵なども、準備されていたり、ビールケースでおままごとコーナーが仕切られていたり、コーナー分けがしっかりされていた。

(5歳児)

- ・1年間のテーマとして、「海」をイメージしているのが印象的。年間の見通しができていて良い。
- ・担任の声掛けが穏やかで優しい印象。「立ちましよう」→「静かに立ちましよう」など。
- ・巧技台では、競争心で急いでやっしまいがちだが、そういったことがなかった。ポイントポイントで落ち着いて参加できるように工夫されていた。環境設定、構成の仕方が良かった。

- ・サッカー教室では、事あるごとに、グループで動いていて自分の居場所がはっきりするので、子ども達分かりやすそうだった。
- ・幼稚園のコンセプトとして「遊びこそが学び」という言葉があった。近年、「あれを教えてくれ」、「勉強は？」という保護者の声がある中、「遊びこそが学び」これを私たちもいつでも言うようにしていきたい。
- ・今日の様子を見てもシールを5枚数える。それだけでも学びになっている。

(なかよし学級)

- ・保護者が、笑顔の先生たちや、参加している保護者と、良い雰囲気話することができていて、公園のような誰でも入りやすい雰囲気が伝わった。
- ・手作り絵本の最後のページの「お子さまの今の姿を書いてあげてください」と言うのが素敵だった。
- ・シールが作れるという事に驚いた。これからの保育の選択肢が広がった。
- ・先生に見てもらって保護者同士で話す姿や、遊んでいる様子を動画に撮っている姿を見て、育児のリフレッシュとして、お母さん達のためになっていると感じた。

東福保育園 小野 里美

(全体)

- ・子ども達が人懐こく挨拶してくれたり、遊んでいる時でも先生が話し出すと、先生に顔を向け、話を聞いたりする姿に、日頃の指導の姿が見えた。
- ・玄関の製作、各クラスのクリスマスにちなんだ製作など、季節を感じる設定が多くあり、大切なことをしっかりやっている印象。木の実、葉の色など、季節を感じられることを、保育の中で意識して子どもや保護者に伝えることが必要であり大切。

(5歳児)

- ・10月から行っているという巧技台の姿を見ることができた。コースを自分で選んだり、シールを貼り、シールアートを楽しんだり、意欲的に参加する姿が見られた。
- ・すべての平均台の下に、クッション材があればより良いと感じた。

(なかよし学級)

- ・子ども同士で遊べる、2歳児クラスの子も遊べる、親の交流の場所でもあるという環境がよかった。
- ・リサイクルコーナーは衣服の相談ができる場ともなるので良い。
- ・絵本作りは画期的だった。自園でシールを作っていることや、顔写真をその場で撮影準備し、自分が絵本の登場人物になれることが良かった。
- ・新規の子の獲得に悩むのはどの園も同じ。公園でアピール、ポスターを貼らせてもらう、ホームページの強化など、努力している。
- ・出席カードや、担当職員の手書きの手紙がとても良かった。

(乳児を受け入れるアドバイス)

- ・東福保育園では、人形劇、足形を使った製作、寝相アートなどを取り入れている。
- ・0歳児クラスでは、なんでも口に入れてしまうことを想定、常に消毒をしている。
- ・年齢別で対応し、動ける子は近くの公園、乳児は0歳児クラスに参加させてもらって一緒に遊ぶなど、年齢別の対応もしている。

久米川保育園 川崎 博美

(環境)

- ・園庭で朝の挨拶が自然に出る姿に日々の保育指導が感じられる。
- ・園庭での設定一つとっても、各担任の連携が取れていると感じた。
- ・クラスの電気つけっぱなしが多かった。こまめに消した方がよい。
- ・先生たちの表情が良く、明るい雰囲気により、子ども達が穏やかだった。

(5歳児)

- ・木工活動、製作が良かった。
- ・運動遊びでは今までの積み重ねを感じた。得意不得意関係なく、楽しめる設定がされていた。運動遊びからのシールアートや、シールを自分で選んで数えてできる場所も良かった。
- ・1年間を通してテーマを「海」としていて、グループも海にちなんだもので設定されていて良かった。

(なかよし学級)

- ・絵本がとても豊富に、見やすい様に用意されていて、迎え入れる環境が整っていた。

- ・在園児(2歳児クラス)も一緒に遊ぶことで和やかな雰囲気だった。
- ・腹ばいの子に合わせて遊べる環境を作っていた。参加者が低年齢化していることを意識した上で年齢に合わせた対応をしていて良かった。
- ・今回の手作り絵本では、先生の「楽しんでほしい」という想いが伝わってきた。自分たちも取り入れられるところは取り入れたい。

草花保育園主任 清水 真理子 (なかよし学級)

- ・参加者が多く、なかよし学級の子、2歳児クラスの子、プレ保育の子など、どの子も好きな遊びを伸び伸びと楽しむことができていた。
- ・保育園の子育て支援に参加している人は、保育園に入れるかどうか、不安に思っている人も多く、余裕を感じにくい。しかし、幼稚園の子育て支援に参加している人は、気持ちにも、子育てにも余裕があり、楽しんでいる人が多いように感じた。幼稚園や、保育園が子育てを楽しめるお手伝いをしていくことが必要であり、保護者のニーズに合わせていくことが大切。
- ・先生たちが、とても穏やかで、必要などころに必要な言葉かけをしているのが印象的。
- ・絵本作りでは、とても工夫がされていて感心した。参考にしたい。裏表紙に「お子さまの今を書いてあげてください」というのが記念になりすごく良い。
- ・親がさせるのではなく、子どもたちが嬉しそうに金魚のシールを貼っていた。一緒に作り、一緒に楽しんでいた。ありそうでない姿だと思う。
- ・手遊び、絵本作り、遊戯…と『金魚』で総合活動になっていた。低年齢の子から経験できるものだった。
- ・保護者が喜ぶものをキャッチする力、選ぶ力が素晴らしい。自園がワンパターンになっていないか、考えさせられた。
- ・新規が増えた、減った、を繰り返したことにより、草花保育園ではポスターを貼ったり、散歩している人にチラシを配ったり、周知に努めている手探りの状況。課題だと考えているので、他の園とも共有していきたい。
- ・子育て支援は、地域の人に還元していくものだと思う。還元できるように努力していきたい。
- ・近くて遠い存在であるため、もっと交流していきたい。悩み相談など、プラスに働くのでは。

若葉保育園園長 石井 ユミ子 (環境)

- ・コロナで中断していたが、公開保育がこうした形で出来て良かった。
- ・築37年の園舎とは思えないほど、きれいに使っている。園児の減少により、クラスの使い方が変わってきたりしながらも、園舎をきれいに存続させようという姿が見られる。継続していく大切さを改めて感じた。しかし、整理する必要があるクラスがある。子どもにとって環境管理は大切。自覚をもって取り組むべきである。1人担任で、時間がなく、苦手のできないのであれば、協力してもらって環境を園全体で作っていくべき。
- ・全体的に製作が上手な印象。伸び伸びしている。

(5歳児)

- ・担任の話し方がゆったりしていて穏やか。穏やかにさりげなく援助している様子が心地よく、嫌みがない。
- ・保育園でも外部のコーチを取り入れている。戸外遊びなど、運動面の指導を考えると、先生たちの経験が浅いため、外部のコーチに指導してもらうことで先生たちが習得する機会が持てて良い。
- ・保育園では、ハイハイ、裸足になる、四足運動を大切にしている。
- ・巧技台では達成感や挑戦する気持ち、ひとりひとり順番に行うことで応援する気持ちが育まれる。これこそ集団の大切さである。
- ・コースを1つにしない、シールアートを組み合わせるなど、遊びをマンネリ化させない保育者のアイデアが素晴らしい。
- ・長コーチと子どもたちの関係が密だった。サッカー教室以外も体育教室を行っていることでプラスになっていると伺える。

(なかよし学級)

- ・杉本先生(子育て支援担当職員)のベテランの素晴らしさが光っていた。一生懸命やっているのが伝わってきた。
- ・『きんぎょがにげた』は、一見、時期的にどうなのだろうと感じたが、内容としては良かった。

- ・身近なシール遊びを親子で楽しみ、活字離れしている中、絵本で慣れ親しんでいる姿がとても良かった。自分の子どもが絵本に登場していることや、成長記録として今の姿を書いてあげることによって絶対に捨てられない素敵なものになったと思う。
- ・子育て支援は『あそぶ』というイメージから『何かしてあげる』ことの大切さを知った。
- ・絵本を作ってから、同じ題材の『きんぎょ』を取り入れた遊戯が良かった。
- ・1人の子が泣いてしまったアクシデントがありながらも、そこを瞬時に判断し、リカバリーした姿はさすがだった。ベテランの対応を見ることができた。
- ・音響が大きいと感じた。近所に支えられて成り立っている幼稚園、保育園という事を忘れずにいきたい。
- ・少子化の近年、園児の獲得に関して、職員全員で危機感を持ってひとりひとりが考えることが大切。
- ・リサイクルコーナーを準備していたり、保護者に寄り添って話す先生がいたり、全体を動かす先生がいる、職員全体で一丸となって盛り上げ、取り組む姿が良かった。
- ・良い園は自分たちが作るもの。継続することが大切。

(質問と回答)

- ・『園庭に1メートルほどのホースがいくつもあった。何に使用しているのか』
→鉄棒につけてブランコ、リヤカーにつけて引っ張る、ホース取り…どのような遊びになるのかは子ども達次第。危険が無いようにしっかり見守りながら考えて遊べるようにしている。
- ・『5歳児のテラスにあったペットボトルでの大根栽培について』
→関田さんの畑をお借りして、種まきから行っている大根の栽培だが、畑が遠く毎日成長を見に行くことができない。そのため、どのような成長の仕方をしているのか観察するために行っている。毎日水やりを行い、「〇〇君の大根よりも僕の方が大きくなった」などと会話を楽しみながら育てている。収穫してから大根餅にして食べたり、ペットボトルのまま家に持ち帰ったりしたこともある。大根が成長した後どのようにするのかは、その年によって異なる。
- ・『巧技台を上履きで行うのはなぜか』
→上履きを履いたまま、裸足、どちらも行っている。巧技台の設定の仕方によって変えている。

草花幼稚園園長 影山 幸江

今回、先生方からいただいたご意見やアドバイスを真摯に受け止め、改善に努めるとともに、良いところは更なる向上を目指して、明日からの保育を行っていきたいと思います。
お忙しい中、ありがとうございました。